1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0472600436
法人名	(株)東北医療福祉システムズ
事業所名	やすらぎ苑利府
所在地 (電話番号)	宮城県宮城郡利府町沢乙字寺下10-1 (電　話)022-766-4662

評価機関名	特定非営利活動法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	仙台市宮城野区榴岡4－2－8　テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成　20　年　6　月　25　日

【情報提供票より】(平成 20年 6月　1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成　17年　2月　15日	
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計　18　人
職員数	16人	常勤　15　人，非常勤　1　人，常勤換算　15

(2)建物概要

建物形態	併設／○単独	○新築／改築
建物構造	木造　造り	
	1 階建ての　階　～　1 階部分	

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000　円		その他の経費(月額)	20,000　円
敷　金	有(　円)		無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	○有(100，000　円) 無		有りの場合 償却の有無	有／○無
食材料費	朝食	円	昼食	
	夕食	円	おやつ	100　円
	または1日当たり　1，230　円			

(4)利用者の概要(　6　月　1　日現在)

利用者人数		15 名	男性	2 名	女性　13 名
要介護1		1　名	要介護2	4　名	
要介護3		7　名	要介護4	3　名	
要介護5		名	要支援2	名	
年齢	平均	82 歳	最低	62 歳	最高　94 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	たんぽぽクリニック・仙台東脳神経外科他・刀根歯科

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

2ユニットの居間兼食堂が隣合わせになっており、事務室との仕切りは上半分がオープンで両方の居間が見渡せる造りになっている。入居者のケアにあたっては担当者を固定せず、職員全員で入居者18名(現在は16名)をサポートし生活を共にするという考え方で運営されている。入居者は事務室内を通って相互に行き来もでき、他ユニットの職員とも顔馴染みであり、開放感の感じられる造作、運営が感じとれた。異食、多動、無断入室などで他の入居者への影響が懸念される方への対応も「駄目」ではなく、「見守り」でサポートしていく優しい眼差しがあり、入居者の表情は穏やかで落ち着いている。家族会の開催、訪問時の家族との対話、玄関への意見箱の設置など、機会を利用して家族の意見を聞き、ケアプランへの反映に努力しており、継続的な取り組みをいただきたい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	**前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)** 前回要改善とされた項目の八割は改善されており、その成果は家族アンケートからも確認できた。①理念への補足②運営推進会議の定期的開催③家族の意見把握手段としての意見箱の設置④職員異動への配慮⑤同業者との交流⑥センター方式の活用等々である。しかし、ケアプランへの家族の意見の反映や見直し時期については改善取り組みたいとしている。 **今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)** 職員一人ひとりが自己評価に取り組み、各ユニットのリーダーがその後とりまとめ作成した。日常の生活の中での理解不足、課題が明らかになり、外部評価結果をまって改善計画として具体化し更なる向上に取り組もうとしている。
重点項目②	**運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4，5，6)** 運営推進会議は定期的に開催しホームの取り組みの報告や家族からの行政への質問、要望など活発に意見交換がなされている。町内会代表者の出席をお願いし、地域の情報についても収集に努力しているが、運営推進会議の構成メンバーにはまだなっていない。
重点項目③	**家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7，8)** 前回の改善事項であり、玄関に家族の意見等の記入用紙と「意見箱」を設置している。また、家族訪問の都度意見、要望を聞いているが感謝の声のみであり、苦慮されている。尚、全員で工夫し意見の反映に努力したいとしており、今後に期待したい。
重点項目④	**日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)** コーラスグループや「利府だいこ」美容室のボランティアが訪問され、入居者は元気をもらっている。また、授業の一貫として数日に亘って地元高校生を受け入れるなど、入居者の状態に配慮しながらも新たな発見の機会として積極的に取り組んでいる。町内会への加入について、継続した努力を続けており、行政からの働きかけについて相談するなど、より工夫し現状の改善を期待したい。

2. 評価結果（詳細）

（ ▒ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホーム開設時に職員も参加して作成し、その後地域での暮らしへの支援を理念として追加している。今後もより分り易く具体的な表現にしていきたいと、職員と共に努力している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の掲示はホーム内数か所にされている。職員は日常的に自らのケアを振り返り、それぞれが理念の実践に努めているが、全体での理念の共有、反映に不足があると感じている。	○	毎日のミーティング時にも繰り返し話し合い、職員一人ひとりの具体的な思い、取り組みを掘り下げ、理念を共有し合い統一を図って実践に活かしていただきたい。
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	「利府だいこ」コーラスグループ、美容関係などボランティアの訪問があり、地域の公民館に移動してのクリスマス会なども行っている。地元高校生の見学、研修も数回に分けて受け入れ、入居者の反応もよく新しい発見があったと話している。また、町内会への加入について継続して取り組んでいる。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員全員で取り組み、リーダーがとりまとめた。運営、ケアの実践、理解などについて不足部分や満足感が認識でき、前年度の外部評価についても全員で話し合い、改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開催し、ホームからの報告、提案等について話し合うと共に、家族から行政に対しての質問の機会ともなっている。今後記録の公表も実施し、更に充実させていただきたい。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	グループホームの現状を報告し理解、助言をいただく機会としており、不明な点や相談について出向いたり、電話をするなどもしている。		
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的に「やすらぎかわらばん」として新聞を発行し、行事での外出や、日ごろの暮らしぶりを伝えている。また家族が訪問した時は声がけし様子を話したり、金銭出納状況の確認もいただいている。遠方の家族にはこれらの送付と共にケース記録をコピーして同封し健康面での報告もしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会が結成されており、意見、相談の機会としている他、玄関に「意見箱」を設置し、気兼ねのない相談、意見を表す機会としている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット間での職員の異動はあるが、他からの異動はない。2ユニットの居間が事務室内を通って相互に行き来しやすいしつらえであり、全職員との馴染みの関係にも配慮している。半年に一人、意識してユニット間で職員を交換しており、それにより入居者のダメージは感じていない。入居者は気軽に話し掛けてくれ、表情は明るい。		
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	宮城県グループホーム連絡協議会に加入しており、研修、交流に参加している。職員も年に1回は外部研修の機会があり受講後は会議等で報告し、知識、情報の共有に取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	利府町内「ケアマネージャー会議」、他グループホーム、同法人の他グループホームとの交流などがあり、取り組み、実践について学ぶ姿勢がある。また、宮城県グループホーム連絡協議会に加入しており、定期的な見学、研修に参加し、情報の取り入れに努力している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ケアマネジャーからの受け入れについての相談や、退院後の緊急的な受け入れなど、必ずしも本人が納得した上での利用開始とならないこともあるが、それぞれのケースに合わせて本人、家族と相談しながら充分な対応にあたっている。管理者、職員はどの場合でも入居してからの取り組みが大切だと認識し、そのように接している。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	訪問時、食事の下ごしらえ、食器洗いなどを行っている入居者の姿がみられたが、若いスタッフは調理、味付けなども日常的によく教わっており、買物時にも野菜の見分け方に驚かされると話していた。その人の「できること」を把握し無理なく支え合う関係づくりに努めている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人ひとりについて、どのように生活していきたいのかなど、具体的に思いや願いを把握するため、東京センター方式をとりいれている。自分の思いを言葉として表現しにくい場合は日常的なケアの関わりの中からくみ取り、その情報を共有して望まれる支援に取り組んでいる。		
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	ケアプランの作成時はミニカンファレンス、ユニットカンファレンス、全体会議等を実施し、より本人の現状に添ったプラン作成に努めているが、家族からの意見、要望のプランへの反映に苦慮している。	○	ケアプラン作成後、内容についてよく説明し同意の上送付しており、その取り組みについて家族が満足していることは、アンケートでもうかがえる。しかし、苑では家族の気付き、要望がうまくいないと感じており、今後話し合いの場をより工夫して、家族からの意見、要望を引き出し、ケアプランに反映しようとしているので期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居者の日々の身体状態等の変化を職員全員で共有し、ケアプランの成果を評価の上、定期的に見直ししている。入居者の身体状況の変化や必要に応じて随時に見直しもしている。しかし入居者によっては、ケアが先行し見直し計画の作成が遅れることもある。また概ね見直し時期は6か月に1度であり、家族との話し合いが不足していると感じている。	○	一人ひとりの状況に合せて、より良いケアに努めていることは、職員のヒヤリングでも確認できるが、やはり見直ししたケアプランに添って統一して支援することが大切であると考えるので、早目に家族にも課題について相談し、意見を反映しつつ最低3か月に1度の見直しに努力していただきたい。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
３．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	外出時は1ユニットのみでなく、両方のユニットの入居者が苑にある大型車で出掛けている。近隣の高齢者に対する支援としての共用型通所介護は広さの点で取り組めないとしており、短期利用共同生活介護は現状では、近隣に該当入居者はいないこともあり、将来は検討したいとしている。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携体制を強化し、日常的な受診は看護師、協力医が苑を訪問し、定期的に行っており、歯科、眼科、人工透析などは、かかりつけ医への支援を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重度化した場合における同意書を交わし、早期に家族との共有はされている。終末期への対応も医療を必要とせず家族からの希望があれば行うことで合意している。当苑ではまだ実施例はないが同法人の他グループホームでは数件あるので対応できるとしている。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 １．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者への呼び掛け、接し方は適切であり、トイレの誘導時もさりげないく目だたない。個人情報などの記録時も配慮しながら行っており、名前の表示もイニシャルにし、保管時は事務所内の戸棚に収納している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や朝食時は1日のスタートとして体調に配慮しながら声がけするものの、それ以外は一人ひとりのその日したいことを探り、本人の自由なペースに合せて支援している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の「できること」を把握し、力倆に合わせて食材の買物、調理、後片付け、食器洗いを一緒にしている。野菜選びなど全面的に任せ、職員は見守つている。誕生会等は2ユニット合同で行い、特別な献立やケーキで祝っている。職員も一緒の楽しい食事風景がとても和やかである。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ユニツトにより希望者に片寄りがあるようだが、午後からその日の希望に合わせて支援している。毎日入浴したい人、はいりたがらない人、その人に合わせてタイミング、状況を工夫し楽しい入浴となるよう試みている。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者一人ひとりの生活歴、「できること」を理解し、その力を持続していけるように支援している。一緒に買物に出掛け、野菜選びなどで、経験を活かし、そのことが張り合いにつながつたげたりしている。訪問時大きな声で民謡を歌ったり、数え歌に合わせて皆でお手玉を楽しむなども見られた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	車いすの入居者も「ひなたぼっこ」など庭に出たり、車で皆と一緒に散歩、ドライブにも出掛けている。外出は大好きであり、時に希望によりラーメン、寿司を食べに出掛けることもある。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	門扉、玄関には日中鍵は掛けず入居者は自由に出入りしている。ひとりで出掛けてしまったり、異食行動のある入居者もいるが、職員は見守りや連絡し合うことで対処し、行動を制限することはない。しかし、受診などで長時間不在となる方の居室には一時的に鍵を掛けることはあり、この事については工夫していくとしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、その内の1回は夜間災害を想定しての避難訓練を消防署員立会いの下に実施している。災害時を想定し職員の召集連絡のみならず、家族への協力依頼にも目を向け、取り組もうとしている。水、かんぱん、防寒シート、紙おむつなどを備蓄している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ケース記録などで食事、水分量を把握し、献立や食品についてチェックを受け、病気による制限食など医師から専門的なアドバイスをもらっている。		
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関内には入居者の手により、生け花が飾られ、職員の顔写真、行事や日ごろの暮らしぶりも写真で掲示してあり、和ませる空間がある。テレビはあまり付けず、お手玉遊びなど活動時にはラジカセでポップスを流していた。ホーム内は窓からの陽射しが事務室にも差し込み明るく、浴室、トイレ、洗面所などの設備は馴染みやすい家庭的なものである。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	箪笥の上に遺影を飾り、お茶を供えることを朝一番の日課にしている方、新聞を取り居室でゆっくりと過ごされる方、自宅から使い慣れたテーブル、箪笥、テレビ、戸棚などを持ち込んで穏やかで安心できる雰囲気作りに努め、寝床もベッド、和式と自分で選択してもらい、安眠につなげている。		